

令和3年度の決算を報告します！

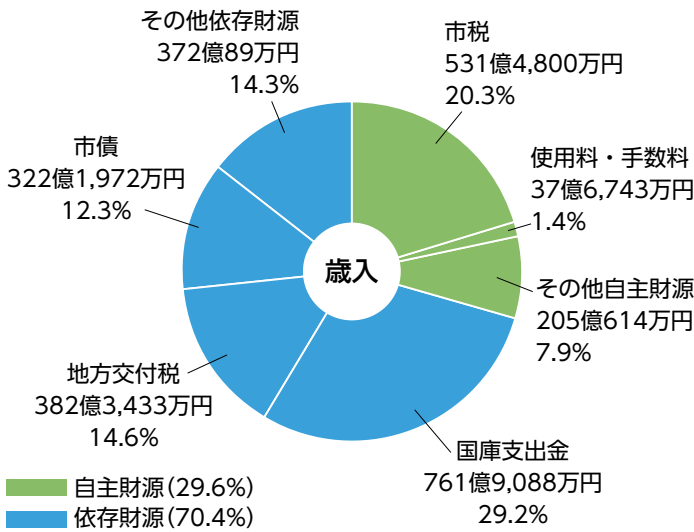
皆さんは、自分が納めた税金がどのように活用されているのか気になりませんか？

令和3年度に、市にどのくらいのお金が入ってきて、そのお金を何に使ったのかを一緒に見ていきましょう。
(金額は四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります)

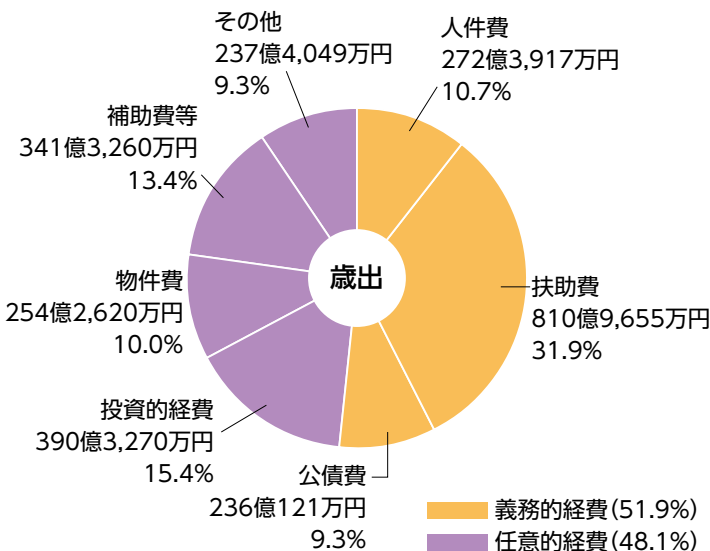
一般会計

市が行う仕事の中心になる会計です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、歳入は「飲食店への営業時間短縮要請に係る県支出金」が増加し、歳出はワクチン接種費などの物件費が増加しました。しかし、全体としては1人10万円の給付金の支給が令和2年度に限り行われた事業であったため、前年度と比べ歳入歳出ともに減少しました。その結果、一般会計の収支は27億7,402万円の赤字となっています。

歳入と歳出の内訳を見てみよう！



市民1人あたりの歳入 約65万円
 一年間の全ての収入。市税収入などの市が独自に確保できる自主財源が少なく、国から交付される国庫支出金、地方交付税の割合が高くなっています。



市民1人あたりの歳出 約63万円
 一年間の全ての支出。扶助費(被爆者や子ども、高齢者、障害者福祉などの経費)の割合が高くなっています。

※令和4年3月末、人口403,628人で計算



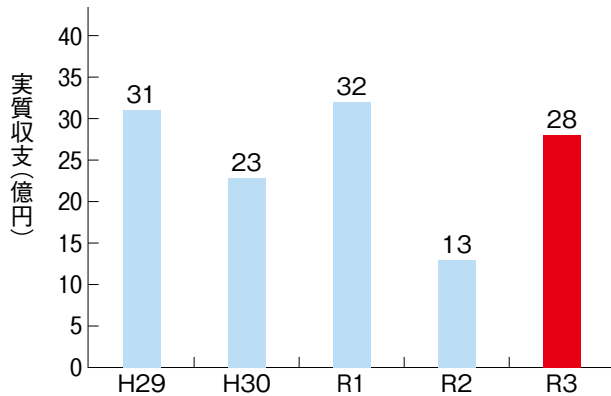
コーホーさん

財政課
☎829-1126

一般会計の実質収支

実質収支は黒字の状態を維持しています。

実質収支とは、歳入と歳出の差額から、翌年度に繰り越すべき財源を引いた収支のことです。基金の積み立てなど今後の財政運営に役立てます。



企業・特別会計の決算

企業会計

それぞれの事業の収益（使用料など）で支出をまかなう独立採算が原則の会計です。

会計	区分	決算額
水道事業	収益的	収入 113億 1,856万円
		支出 96億 8,838万円
	資本的	収入 7億 1,590万円
		支出 61億 259万円
下水道事業	収益的	収入 128億 7,601万円
		支出 114億 459万円
	資本的	収入 66億 9,391万円
		支出 117億 605万円

収益的収入と支出

企業の経営活動により発生する収益と、それに対応する費用

資本的収入と支出

企業の将来の経営活動に備えて行う建設改良費や企業債償還金などの支出とその財源となる収入

特別会計

一般会計のほかに、特定の収入（保険料や使用料など）で、その事業の支出をまかなう会計です。

会計	収入済額	支出済額
観光施設事業	4億 4,815万円	4億 4,639万円
国民健康保険事業	547億 2,179万円	543億 8,224万円
土地取得	14億 9,380万円	14億 2,239万円
中央卸売市場事業	2億 5,637万円	2億 5,637万円
駐車場事業	2億 320万円	2億 320万円
財産区	3,651万円	3,651万円
母子父子寡婦福祉資金貸付事業	2億 5,943万円	1億 2,847万円
介護保険事業	476億 8,603万円	465億 399万円
生活排水事業	5億 821万円	5億 821万円
診療所事業	3億 4,087万円	3億 4,087万円
後期高齢者医療事業	59億 2,569万円	59億 303万円
長崎市立病院機構病院事業債管理	9億 9,295万円	9億 9,295万円
合計	1,128億 7,300万円	1,111億 2,460万円
前年度比	1.3% 増	1.4% 増

◆一般会計

歳入	予算額	収入済額	収入率
	2,412億 8,400万円	961億 5,800万円	39.9%
歳出	予算額	支出済額	執行率
	2,412億 8,400万円	914億 6,900万円	37.9%

◆特別会計（国民健康保険事業、介護保険事業など12会計）

予算額	収入済額	支出済額
621億 3,800万円	454億 3,700万円	438億 2,900万円

◆企業会計

会計	区分	予算額	執行済額
水道事業	収益的	収入 111億 1,600万円	48億 1,500万円
		支出 99億円	16億 1,200万円
	資本的	収入 10億 9,700万円	1億 1,400万円
		支出 71億 1,500万円	14億 5,900万円
下水道事業	収益的	収入 126億 1,300万円	50億 100万円
		支出 114億 4,300万円	17億 4,300万円
	資本的	収入 72億 5,000万円	11億 5,300万円
		支出 122億 2,800万円	39億 2,600万円

◆一時借入金の現在高
11億 3,500万円

◆市の財産
6,662億 8,191万円

◆市債（一般・特別・企業会計の合計）
3,592億 500万円

令和4年度の上半期（4～9月）
の財政状況

※9月末時点

基金・市債などの状況

基金(貯金)

市民1人あたりの貯金

約**11**万円

基金は、財政運営や特定の目的のための資金・財産です。令和3年度末の残高は約455億円です。

市債(借金)

市民1人あたりの実質的な借金

約**32**万円

市債は、学校や道路などの建設や災害復旧工事などを将来を含めた世代間で公平に負担し合うための借入金です。

市の財産

種別	金額
土地	2,488億 8,756万円
建物	2,904億 9,452万円
工作物	1,026億 1,558万円
その他	242億 8,425万円
合計	6,662億 8,191万円

一時借入金

一会計年度内での収入と支出の一次的な不均衡を解消するための借入金です。令和3年度の最高借入額は118億781万円です。

未収金

令和3年度は、滞納者に約6,000件の差し押えなどを行うとともに、新型コロナウイルス感染症に係る徴収猶予(特例措置分)の納付が進んだことなどで、令和2年度より未収金が減少しました。

財政状況

財政状況を表す健全化判断比率は国が定める基準を全てクリアしています。実質赤字比率と連結実質赤字比率は赤字がなく、残り2つの指標も早期健全化基準未満となっています。

収入種別	金額
市税	13億 1,215万円
国民健康保険税	17億 6,633万円
市営住宅家賃	1億 37万円
介護保険料	1億 3,659万円
後期高齢者医療保険料	3,383万円
保育料	4,255万円
その他	8億 7,416万円
合計	42億 6,598万円 (前年度比12.5%減)

令和3年度の主な取り組み

市がめざす将来の都市像「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」の実現に向けてテーマを掲げ、取り組みました。ここでは主なものを紹介します。



長崎開港450周年記念 事業費 5,809万円

長崎が開港して450周年の節目の年にさまざまな記念事業を行い、長崎のまちが港と海とともに発展してきたことを振り返り、これからのまちづくりについて考え、行動を起こす契機としました。



子育て支援センターの充実 7,713万円

子育て中の孤立感や負担感の軽減を図るため設置している子育て支援センターを、新たに4地区に開設しました。また、より気軽に利用できるよう利用料を無料にしました。



「平和の文化」の醸成

981万円

平和の新しい伝え方の取り組みに補助金を交付したり、絵本を通して子育て世代に平和を考える機会を提供したりするなど、さまざまな入り口から平和を考え行動する取り組みを推進しました。



再生可能エネルギーの導入推進

まちづくりの脱炭素化 3億8,673万円

道路灯と公園灯をLED化し、長崎東公園に電気自動車用急速充電設備を設置しました。また、公用車6台を電気自動車に転換するなどCO₂削減に取り組みました。

出島メッセ長崎の整備

41億9,056万円

MICE誘致・受入の推進

2,956万円

国際会議や大規模イベントなどが開催できる出島メッセ長崎を整備し、令和3年11月に開業しました。地元経済界などとともに誘致活動を行い、会議やイベント開催に伴う市内受注促進のため、地元企業のスキルアップを図りました。また、参加者の滞在・周遊、消費拡大を促進しました。

デジタル化推進費

1,331万円

「人」が主役のまちづくりを、デジタル技術で加速させる。をコンセプトに、市のデジタル化の指針となる「長崎市DX推進計画」を策定しました。

新型コロナウイルス対策や各種支援

- ・新型コロナウイルス感染症対策費……………12億8,519万円
- ・PCR検査などの実施体制を整え、陽性者へ適切な医療を提供するための対策を実施
- ・新型コロナウイルス予防接種費……………35億8,498万円
- ・市民が円滑にワクチンを接種できるよう体制構築を図り接種を実施
- ・住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金給付事業費……………53億5,537万円
- ・生活・暮らしにお困りの方々（住民税非課税世帯など）への支援
- ・子育て世帯生活支援特別給付金給付事業費……………5億3,997万円
- ・低所得のひとり親世帯などに対し給付金を支給
- ・子育て世帯への臨時特別給付金給付事業費……………54億9,034万円
- ・子育て世帯に対し給付金を支給
- ・営業時間短縮要請協力金……………90億7,625万円
- ・営業時間の短縮に協力した事業者に対し協力を支給
- ・中小事業者等一時金……………27億4,347万円
- ・飲食店の時短営業や外出自粛の影響により売上が減少した事業者に一時金を支給

